

## 令和4年度下半期 南城市景気動向調査報告書

1. 調査目的：南城市内における経済動向等に関する情報の分析を年2回実施し、効果的な経営支援の実施、並びに事業活動の参考とすることを目的とする。

2. 調査概要：南城市内の建設、製造、小売、サービス業 計40社を選定して景気の先行きをみるための調査です。この景況調査は、景気等に関して個々の企業の意識調査を行ったもので、その結果を数値化して表したものが、B.S.I (Business Survey Index：ビジネス・サーベイ・インデックス=景況判断指数) です。調査項目としては、売上額、仕入単価、採算、資金繰り、業況、雇用状況、喫緊の課題、業況判断の背景です。前年同期の調査項目を比べて総合的な景況観を分析する調査です。

## 3. 調査結果

		増加	不変	減少	BSI 結果		
1	売上額	50%	37%	13%	37	増加	
2	仕入単価	62%	35%	3%	59	極めて増加	
3	採算	17%	65%	18%	-1	減少	
4	資金繰り	10%	80%	10%	0	不変	
5	業況	17%	73%	10%	7	増加	
6	雇用状況（従業員）	70%	30%	—	0	不変	

## 4. 業種別の前年同時期との比較

	製造関連	小売関連	建設関連	サービス関連
前回調査時 (令和3年12月)				
				
今回調査時 (令和4年12月)				

## 5. 喫緊の課題（上位項目）

- 1位：材料等仕入単価の上昇
- 2位：従業員の確保難
- 3位：製品（または消費者）ニーズの変化への対応、人件費の増加

## 6. 業況判断の背景に対するコメント

- ・材料の価格上昇と半導体不足等の影響による入手難などが仕事に影響している。（製造業）
- ・新しいことにチャレンジして自力で現状を打開していけないと思っている。（製造業）
- ・観光客が減っているので事業形態を変え、地元のお客を増やすように変えていきたい。（製造業）
- ・コロナ前に戻りつつあるが、材料費の高騰や半導体不足の影響による材料不足が悪影響を及ぼしている（製造業）
- ・材料の高騰が仕入れに与えるダメージが大きいが、価格を上げるのが苦しい。（製造業）
- ・コロナで客足が減ったのは大変だった。保障などでサポートしてもらい、今年から順調になってきたが約3年間のダメージを回復させるのに労力が必要で時間が足りない。（サービス業）
- ・原材料の上昇によるコスト増加が続いておりまだ厳しい状況が続くと予想される。（小売業）
- ・コロナに関しては状況がよくなってきていると感じているが、ウクライナ侵攻からの国際紛争を機にサプライチェーンの崩壊又は円安での原材料値上がり等、企業が厳しい状況になると思われる。（小売業）
- ・アフターコロナに向けて世相の状況を判断しながら業務拡大に向けて動きたい。また人材確保に向けて注力したい。（小売業）
- ・コロナでの規制がなくなり、県外からのお客も来店することが増え、全体的に客数が上がってきた。（小売業）

## 7. 調査報告

新型コロナウイルス感染症の影響が改善してきたものの、南城市内の景気は原油価格の高騰に起因した物価の上昇がさらに追い打ちをかけている状況である。また、従業員の確保難を課題に挙げている事業者が多く、今後も人手不足が大きな課題になるといえる。

県の主要産業の観光業も、ようやく復活の兆しが見えてきたが、新たな仕入単価の増加、人員不測の問題が生じており、全く楽観視できる状態ではない。引き続き市内の中小事業者の動向を注視し、窮状に陥らないようきめ細かなサポートをしていく必要がある